

第1回「島田市民憲章制定委員会」を開催

◎秘書課 ☎36・7117

1月22日、第1回「島田市民憲章制定委員会」が市役所で開催されました。「市民憲章」とは、まちづくりの目標や市民生活の規範を示すもので、島田市では新市誕生10周年を機に制定することとしました。そこで同委員会は、広く市民の意見を取り入れた憲章とするために設置されました。

委員は、団体推薦や公募枠などから選ばれた10人。地域の将来を担う若い世代や子育て中の親を含む、幅広い年齢層の男女各5人です。委員長には鈴木善彦氏（猪土居）、副委員長には松本修氏（菊川）が就任しました。今後、同委員会では制定に向けて協

議を重ねて意見をまとめ、議会での議決を経て、11月に開催する「新市誕生10周年記念式典」で憲章を発表する予定です。



市長から委嘱状を手渡される鈴木委員長

中国長沙外国語学校の生徒が島田市を訪問

◎観光課 ☎36・7163

2月3日、中国湖南省長沙市の長沙外国語学校の生徒と教諭29人が、教育旅行の一環で来島し、濱田教育長を表敬訪問しました。

濱田教育長は「日中の懸け橋になり、実り多い訪問になることを願っています」と歓迎。生徒たちは、日本での交流やさまざまな体験に期待を示しました。一行はその後、島田工業高校を訪問し、運動部に混じって生徒同士の交流を深めました。



日本語で挨拶する生徒代表

市とヤフーがネットを活用する災害協定を締結

◎危機管理課 ☎36・7143

2月25日、市とヤフー株式会社は「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結しました。この協定では、市から発せられる避難勧告や避難指示、避難所などの情報に住民が円滑にアクセスできるよう、同社がさまざまな災害情報を集約・整理して提供。また、災害時に市のホームページなどへのアクセス集中により、閲覧困難な状況を防ぐことを目的としています。

協定の締結により、災害時に両者が連携し、インターネットの特性を活用した、きめ細やかでタイムリーな災害情報を、市民の皆さんに伝えることが可能になります。

【協定のポイント】

- 避難情報を掲載／避難勧告や避難指示などの情報を「Yahoo! Japan」に掲載することで、より広く、より多くの人への周知が可能になる。
- アクセスの負荷軽減／市ホームページの「キャッシュサイト」（代替ページ）を提供することで、閲覧しづらい状況を軽減する。
- 避難所マップを用意／市が避難所情報を同社に提供することで、誰もが「Yahoo! Japan」で基本情報や位置を確認することが可能になる。
- 災害情報ブログを活用／市が同社提供の災害情報ブログを開設することで、平時から災害情報を発信する手段の一つとして活用できる。

最期の迎え方を考える「エンディングノート」上映

◎健康づくり課 ☎34・3281

2月8日にプラザおおるりで「エンディングノート」の上映会が開催されました。この映画は、がんの告知を受けた男性が死を迎えるまでを、娘が撮り続けたドキュメンタリー。市民が「最期の迎え方」を考える機会を設けることを目的に、島田市在宅医療推進協議会が開催しました。

上映に先立ち、同協議会が寸劇「笑顔でありがとうと言える最期を迎えるために」を上演。また展示ホールで



展示に見入る来場者

は、医療や介護の関係団体による在宅医療の推進に関連した取り組みや、現状を紹介する展示も行われました。

新しい島田市議会議長に紅林貢議員が就任

◎議会事務局 ☎36・7204

2月市議会定例会の初日となる2月18日、河原崎聖^{かわらざき せい}議長^{ぎやう}の辞職に伴う議長選挙が行われ、紅林貢^{くわいばやし みつぐ}議員^{ぎん}（67歳・湯日）が選出されました。

紅林新議長は議員任期3期目で、議会運営委員長や市監査委員などを歴任しています。

また、紅林議員の議長就任に伴い、議会運営委員会委員に福田正男^{ふくだただお}議員が選出されました。



新しい議長に選出された紅林議員

市職員チームが「島田ブランド」構築へ向けて報告

◎政策推進課 ☎36・7191

2月4日、市役所内の若手・中堅職員6人でつくる「島田市シティプロモーションプロジェクト推進チーム」が、島田ブランド構築に向けた報告書を染谷市長へ提出しました。

同チームは昨年5月の発足以降、定住・交流人口増を図り、市の魅力や取り組みを広くPRするシティプロモーションのあり方を検討。多くの会議や市民との意見交換などを重ねて、報告書を取りまとめました。

報告書では、日本一の茶園の開拓や、日本初の女性参政権の行使を実現した島田の先人のフロンティア精神を踏まえ、「拓いていくまち 島田」を「ブランドメッセージ」として提唱。地域特性を生かした新たな市の魅力を発掘・創造し、ストーリー性を持たせた「島田ブランド」として市内外に

発信することで、「選ばれる都市」を目指すことを提案しています。

染谷市長は、提案を受けて「良い土台ができたので、次は市民や他の職員を巻き込み、熱量を上げていかないといけない。まとめてくれた成果を生かしていきたい」と話しました。



市長に報告書を提出するプロジェクトチームのメンバー

行政改革のアイデア提案「ヒラメキ！改善運動」

◎企画課 ☎36・7235

2月16日、市が行政改革の提案を職員に募った平成26年度「ヒラメキ！改善運動」の表彰式が行われました。同運動は、職員の自由な発想に基づく業務改善により、効率的な行政運営の推進を図ろうとする取り組み。今回は54の提案がありました。

部内審査と職員投票により、10点が入賞。最優秀賞には、島田市民病院経

営企画課の「待ち時間における患者満足度向上に向けた取組『市民ふれあい講座』」が選ばれました。この提案では、医療・健康・文化・歴史など幅広い分野の情報を提供する講座を、病院内の待合ホールで開講。外来患者さん、診療待ち時間を有効活用してもらうことを目的としています。

また今回は、新市誕生10周年記念事業のアイデアも併せて募集。16の提案があり、入賞3点が選ばれました。

県広報コンクールの最優秀賞を4年連続受賞

◎広報課 ☎36・7118

県と県広報協会は、1月21日に「平成26年度静岡県広報コンクール」の審査結果を発表し、「広報しまだ」が2部門で受賞しました。

このコンクールは、県内の市町や団体が昨年中に発行した広報紙・掲載写真、公開した広報映像などを対象とし、表現力や企画力、デザイン性などが審査されます。

審査の結果、広報しまだ11月号が広報紙（市）部門で最優秀賞、7月号表紙が広報写真（一枚写真）部門で優秀賞を受賞しました。

4年連続で最優秀賞を受賞した広報しまだ11月号は、日本広報協会主催の「平成27年全国広報コンクール」に静岡県代表として推薦されます。

今後も、市民の皆さんに親しまれ愛される広報紙づくりに励んでいきます。取材に伺った際は、ご協力をお願いします。



広報紙(市)部門/広報しまだ11月号